

クラス番号	630	担当教員名	火口弥生
テーマ	在宅支援のための住環境整備とその人にとっての価値あるケアを考える		
著書・論文 研究課題等	「高齢者・医療・介護・現場からのレポート」大阪民主医療機関連合会編 清風堂書店 「ソーシャルワーク 事例研究の理論と実際」共著 中央法規		

ゼミナール概要

キーワード：楽しみの支援 認知症予防 ダイバーショナルセラピー アロマセラピー 住環境整備

私の問題意識：

MSW、障がい者・高齢者施設の相談員を経験し、現在は介護事業（居宅介護支援・通所介護・福祉用具貸与・住宅改修・障がい者就労支援B型）の経営に携わっています。病院、施設、在宅の支援を経験する中で、一人一人の暮らし方のこだわりに触れてきました。特に在宅支援においては、それぞれの価値観に基づく考え方をどれだけ尊重できるかが大切だと感じています。

暮らしの安全・安心は当然ですが、その思いに寄り添い、その人にとって価値ある生活支援の実践のなかで、特に「認知症の予防」と「楽しみの支援」に着目したいと思います。世界レジャー憲章の中で「人は誰しも楽しむ権利を有する」をうたわれています。退屈の放置は楽しむ権利の侵害であるとも言われており、その権利の保障がケアの本来の目的ではないかと思えます。楽しみの支援の一つとして、オーストラリア発症の「ダイバーショナルセラピー」（以下DTと記す）を紹介します。DTは「気晴らし療法」と訳されており、一言でいうと「朝、目が覚めたとき ベッドから起き上がる理由を持てるように手助けする事」です。起き上がる理由を提供するのではなく、自身で見つけられるよう側面的に支援することです。認知症や寝たきり等により、意思表示の困難な方の楽しみをいかに保障するのか。生活のしづらさや価値観を理解し、エンパワメントの視点を忘れないことが大切です。また、心穏やかに、自分らしさを発揮するための支援としてアロマセラピーの薬理効果とタッチングの効果についても実践を試みています。DTやアロマセラピーの効果の学び、ケアのあり方や、楽しみを含めた生活の質に大きく影響する住環境整備についてもソーシャルワーカーの視点で考えていきます。バリアをフリーにするという事は、まず、その人にとって何がバリアかを知ることから始まります。本人のみならず家族のライフスタイルにも着目するという点では、DTと共通するものがあります。安全・安心だけではなく、居心地の良さやひとり一人の価値観を尊重するケアの実践を目指し、学んでいきましょう。

授業計画：

- ・DTの理解を深め、DTに取り組んでいる施設での体験学習とグループ報告
- ・バリアフリー展（4月 大阪）の見学と福祉用具の適合についての学習
- ・時事問題をとりあげ、プレゼンテーションとディスカッション

体験学習や見学・グループ発表を通して、目的達成のためのプロセスの組み立方やプレゼンテーション能力を身につけることを目指します。

担当教員からのメッセージ



ゼミは自己表現の大切な場です。ゼミの仲間力を借りて、自分を表現することにチャレンジしてください。ゼミでの学びが実習や実践の場でも活かせるものと思います。